

ニュースレター

No.64

発行 / NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
事務局 / 〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1
稲城市地域振興プラザ 1F
TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971
E-mail info@i-inagi-support.org
http://www.i-inagi-support.org/

新型コロナウイルス感染症対策に係る 緊急アンケート結果報告

市民活動サポートセンターいなぎでは、今回の新型コロナウイルス感染症により、登録団体の活動や会員の皆さんがどのような影響を受け、どのようなご要望をお持ちか、実情を把握するため緊急アンケート調査を行いました。今回は、その概要をお伝えします。

※掲載にあたり、アンケート回答の自由記述文については、一部編集しております。予めご了承ください。

調査対象：サポートセンターいなぎの利用登録団体
95 団体
調査期間：令和 2 年 6 月 3 日～6 月 15 日
調査方法：調査用紙を郵送し、回答を郵送・FAX・メールにて回収
回答数：44 団体（回答率 46.3%）

※以下、赤字表示の文章は複数の団体から出された意見です。

⑦スタッフのモチベーションが上がらない	14
⑧イベント等の開催ができない	37
⑨その他	12

複数回答可能な質問であり、9つの選択肢全てを選んだ団体もあった。回答数の平均としては、1団体3つ以上の選択肢を回答している。

一番多い回答が「⑧イベント等の開催ができない」であった。イベントを開催して寄付金等を募る団体が多いため、イベントが開催できないことで、活動資金が得られないという課題を抱える団体が多くあった。

次に多い回答が、「①今年度の活動計画が立てられない」「②メンバーと十分に話し合えない」である。団体で集まれないため、総会を開催できず、今年度の事業計画や代表者も決まっていない団体もあった。

〈「⑨その他」の回答の内容〉

■運営体制に関する課題・不安

- ・感染対策をとった新たな生活様式のモデルがなく、手探りの状況
- ・活動時の「ソーシャルディスタンス」の取り方が不明確
- ・先の計画が立てられず、今後どのようにイベントを開催するか想像できない

■活動資金や活動場所、物品の確保

- 活動がなくても、家賃や維持費がかかり、運営が大変厳しい
- 公共施設が閉館や利用制限されているため、会議や集いの場が開けない
- イベントが開催できたとしても集客が見込めない
- ・計画変更・中止の連絡等にも予想以上の時間と出費が発生した
- ・感染予防の物品（消毒用アルコール等）が入手できない

【質問 1】

新型コロナウイルス感染拡大により、活動や支援者に影響が出ていますか。（数字は回答数）

①多大な影響が出ている	37
②今後影響が出ると思う	9
③当面影響は出ないと思う	0
④出ていない	1

回答した団体のおよそ98%が「影響が出る」と回答した。なお、①と②を共に選んだ団体が3団体あり、未回答が1団体あった。

【質問 2】

質問 1 で「①多大な影響が出ている」及び「②今後影響が出ると思う」を回答された方にお尋ねします。具体的にはどのような影響がありますか。（複数回答可。数字は回答数）

①今年度の活動計画が立てられない	33
②メンバーと十分に話し合えない	32
③利用者と十分に連絡が取れない	16
④運営体制の維持が難しい	6
⑤ボランティアが集まらない	3
⑥収入減により活動の財源が確保できない	7

■利用者や家族の生活の質の悪化

○団体利用者の引きこもりや孤立化が心配

- ・活動や稽古の休止期間が長くなってしまった

団体利用者と交流する機会が極端に減ってしまったため、「利用者の生活が心配」との回答が複数見られた。具体的なものとして、①高齢者の体調悪化や認知症の進行、孤立感の増加、②子どもたちの心のケアや学習の遅れ、③育児をしている親の負担の増加等を心配する回答が多かった。

【質問 3】

上記の困ったことに関して、貴団体ではどのような対応をされましたか。(自由記述)

■活動やイベントの中止

- ・3月から5月末まで全面的に活動停止とし、6月から活動再開したが通常の半分程度の活動にした
- ・今年度の活動計画は、社会全体の状況を見ながら立てていくことにした
- ・イベント開催を中止した

■自粛中の活動

- SNS、メール、電話等を利用した情報の交換や共有を行う
- web 会議ツールの ZOOM 等を利用し、リモート会議を行って、意思の疎通を図った
- フェイスガードやマスクの着用、消毒液や衝立の設置等の感染予防対策を行った
- 定期総会を開催できないため、書面での表決や承認を行った
- ・web 会議ツールの ZOOM 等による昼食会を計画している
- ・消毒用品を準備してもらえ施設を利用する
- ・活動時間の短縮、屋外で互いに距離をとって活動する
- ・活動場所の利用再開までは、各自自宅で自主練習や活動を行う
- ・申請等は受付期限を延長した
- ・今後実施するイベントは参加人数を半数に限定して行う

■財源の確保

○助成金情報を得て、助成金の確保に努めている

- ・収入減に対してブログ・ホームページ等で呼びかけた
- ・感染拡大防止協力金や、ゆめ応援ファンド 2020 年度特例補助金の申請をした

■利用者への対応

- ・利用者のひきこもり対策として、コロナ対策や稲城市の転倒骨折予防体操の図解をコピーし、自宅を訪問してお菓子と一緒に配った
- ・スタッフが会員さんに直接電話をして対応した
- ・心配な方は、個々に地域包括支援センターに繋いだ

- ・周囲の方々への思いやりを持った行動を心掛ける
- ・公共施設の状況や、学校の対応（休校・分散登校等）にあわせて、柔軟な対応をするよう心掛けている

【質問 4】

団体が今後、支援を希望する内容について。(自由記述)

■情報提供及び共有

- ・他市や他団体が行っているコロナ対策の情報を提供してほしい
- ・施設利用やイベント開催等 2～3 か月先を見通した情報を発信してほしい
- ・自然災害時を含めて、非常事態にはどのような対応が必要か普段から話し合っておくべき
- ・どのような支援が受けられるか等を相談したい

■会場の利用

- ・検温やマスク、除菌、三密等の感染防止対策を万全にした時は、会議室利用を許可してほしい
- ・会場の確保及び支援
- ・リモート会議設備が整った会議室の貸し出し

■財政的支援

- ・助成金及び、その情報を希望する
- ・イベント等において活動資金の寄付を得ているため、援助がないと運営が難しい
- ・スキルアップ研修を行う資金が不足している

■物資や指導等の支援

- ・リモートでの活動ができるよう、すべての市内施設で Wi-Fi 環境の整備
- ・リモート用タブレットや PC 等の貸出
- ・無料 Wi-Fi 接続方法等、リモート会議を行う際の指導
- ・様々なイベントについて、実際に開催する際のポイント（留意点）やオンラインでの開催の仕方等の指導

■その他

- ・大災害時にも備え、様々な団体と顔見知りになり、助け合える関係になりたい（子ども見守り / 居場所 / 困り事共有 / 発信等）
- ・施設を封鎖すれば良いというものではなく、困っている方をいかに支援していくか、きめ細かく配慮した対策を希望する

【質問 5】

その他、行政や助成団体等他組織への要望があればご記入ください。(自由記述)

■情報

- NPO としての存在とその活動をより広く地域住民に知ってもらえるように、広報の仕方を工夫してほしい

- ・新しい形の進め方はどうなるのか、具体的に示してほしい
- ・稲城市の情報等を提供してほしい
- ・他団体の活動を知り、情報交換ができると良い

■オンライン事業の充実

○オンラインでの手続きの充実化や、web 会議を常態化してほしい

- ・サポートセンターが主催するイベントもオンラインで参加できるよう、実施及び指導してほしい
- ・サポートセンターの web サイトで、市内の様々なイベント案内機能の充実

■その他

- ・打合せ場所や会議会場等、会員の集合場所の提供をしてほしい
- ・カウンセリングルームの使用を認めてもらいたい
- ・今回、文化センターや図書館などが一律閉館になってし

- まったが、三密にならない工夫をすれば一部でも利用が継続できるのではないかと
- ・家賃や維持費がかかるため、助成してほしい
- ・外国人対応の意識。外国人に目を向けた対応をしなければ他市に逃げてしまうのではないかと
- ・今年度は第 6 期障害福祉計画が策定される。市民にその情報・計画を知ってもらえる努力をしてほしい。
- ・知的障がいの青少年の外出練習に対し支援が少なく、親の体調不良時に困っている。ボランティア等含め余暇活動の外出等もサポートが気軽に利用できる仕組みがほしい（金銭負担が軽減されるような）
- ・コロナ禍で親が体調不良時の「障がい児のサポート」で困った。預け先がなく、親族も頼れなかった。児相預かりのような「個別預かり」体制が必要。この体制があれば、虐待防止や精神の安定にもなると思う

アンケート結果を受けて

緊急アンケートであったにもかかわらず、半数に近い市民活動団体から回答があり、各団体が深刻な状況にあることが把握できました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止・利用者の安全確保のための活動の中止や中断が、高齢者や子ども、障がいを持つ方々、外国人等支援を必要とする人たちの孤立化という影響をもたらしています。また、イベントの中止により活動資金の確保が見込めない団体も多く、団体自体へも多大な経済的影響を及ぼしています。

一方で、この現状にどのように対応するかを模索し、行動に移している団体も多くみられ、市民活動団体の前向きな姿勢に、高いポテンシャルと活力を感じました。

このような結果を受けて、サポートセンターいなぎでは、以下のことについて検討及び実施しています。

①市民活動団体の活動の再開・継続に向けた支援

「公共施設の利用制限により、活動場所を借りられない」「施設に消毒関係の備品の貸し出しや備え付けをしてほしい」との回答があったことから、会議室貸し出しの際には、利用者に健康チェックシートを記入していただき、三密にならない範囲で施設を貸し出しています。また、消毒液や非接触型体温計の貸し出し、飛沫対策のための使い捨てマイクカバー等物資の支援を行っています。

②オンライン事業の充実化

「団体の存在と活動内容をより多くの市民に知ってもらえるよう、広報の仕方を工夫してほしい」「オンラインでの手続きの簡素化やイベントの充実化を図ってほしい」との意見も多くあったことから、サポートセンターいなぎ web サイトの充実化を図り、団体の PR やイベント情報を迅速かつ正確に提供できるように努めます。

③政府や自治体からの情報の提供

財政的支援を求める団体が大変多くあったことから、特

に助成金等資金面に関するものを中心に、情報提供を行っていきます。今回、アンケートの回答があった団体には、代表者宛に現時点での助成金申請に関する情報を送付しましたが、今後は web サイト等を活用し、すべての団体が情報を受け取れるようにオンライン事業の充実化とともに進めます。また、今後はサポートセンターいなぎの主催事業等でも、団体や利用者がオンラインで参加できる事業を増やすように検討していきます。

今回のアンケートをもとに、利用者や団体が抱える課題が解消されるよう、各地の中間支援組織や他自治体の取り組み及び事業等を参考にしながら、行政と連携し、団体への支援が継続的に実施できるよう努めていく所存です。

市民活動サポートセンターいなぎ

新しい登録団体を紹介します！

グループ名：稲城グリーン化プロジェクト (IGP)

代表者：田村 伸一

会 員：8名

2019 年前期、I C カレッジ講座「持続可能な社会と地上の太陽」(講師：中央大学名誉教授・河野光雄先生) から派生した会で、再生可能エネルギー(現在はマイクロ水力発電に注力)を実現し、エネルギーの地産地消、循環型社会の実現を目指しています。

異常気象を超えて大規模化する災害などに対して、地域で出来ることを取り上げて問題解決を図るとともに、全国のロールモデルを作りたいという夢を持っています。

【連絡先】田村伸一さん

TEL：080-4850-1625

e-mail：inagigreenproject@gmail.com

市民活動支援基金

今年度の助成金が給付されました。

- 団体名** いなぎ草の根文化サロン
代表者 稲田 善樹
助成内容 ステップアップ助成：サポートセンター運営協議会基金
活動内容 過去2年間で行ってきた「窪 全亮と奚疑塾」「窪 全亮と小俣 勇」の展示資料と講演内容などを再整理し、多くの市民に伝えていくための冊子を作成する。
- 団体名** ミュージカルi
代表者 小松 政敏
助成内容 スタート助成：こどもの森文化基金
活動内容 年1回の公演に向けて毎週土曜日に講師の下で演技レッスンをしている。公演は多くの市民の皆さんに観ていただくため、社会貢献活動の一環として入場無料にしている。今年度は「アラジン」の再演を予定している。

新しい事務局職員を紹介します！

市民活動サポートセンターいなぎは、中間支援組織の業務だけでなく、稲城市から地域振興プラザの指定管理者として4階会議室の管理、姉妹都市交流・国際交流、iまつり実行委員会事務局等の業務も行っています。



サポートセンター事務局職員。前列左から、嶋さん、小笠原さん、板橋さん、吉津さん。後列左から、八束さん、角田理事長、小川事務局長

平成27年4月から事務局長を務めた渡邊知明さんが退職し、令和2年4月から小川由紀夫さんが事務局長として着任しました。同じく4月から吉津里砂さんが市役所から研修生として派遣されました。また、2月から板橋恵子さんが臨時職員として採用されました。

今後も地域の皆さんに愛される中間支援組織として事務局の役割をしっかりと果たしてまいります。

どうぞよろしくお願いたします。

おしゃまします

ボランティアサークル はらっぱの会

現役の子育てママと先輩世代のお母さんたちを、世代を超えてつなぐ子育て支援のサークルです。

代表の鈴木優子さんを中心に、勤め先の保育園や子育て中に知り合った、「何か地域に貢献できる活動をしたい」という同じ思いを持つ人たちが集まり、2014年7月に発足しました。

子育て中のママが、心と身体を大切にしてくる健康的に子育てできるように、子育てが終わった先輩お母さんたちがママを支えることを通じて、地域に貢献することを目指しています。

また、「みんなで作る、みんながホッコリできる居場所づくり」を通じて、人生100年時代にメンバー一人ひとりが、笑顔で楽しく生き甲斐を持って活動していくことを目指しています。

主な活動として、赤ちゃんの世話をしたりあやしたりするときにママが歌いながらスキンシップして親子の絆を深める「わらべうたベビーマッサージ教室」や、絵手紙やクラフト工作のワークショップ開催、茶話会、地域で行われるお祭り等の行事への参加などを行っています。

「子育て中のママに向けた様々な活動を通じて、こういう場があることを知ってもらい、気軽に参加しておしゃべりを楽しんだり友達を増やして、心の交流を膨らませてほしいです。みんな真面目だからこそ悩むことが多いので、そういうママたちが共感しあえる場にしたい」（代表の鈴木さん）。

現在のコロナ禍で、ママたちが直接顔を会わせることは難しくなっていますが、絵本のブックカバーを使ったバッグ作りワークショップを



オンラインで開催するなど、リモートで行える活動を模索しています。

毎月第4金曜日の午前10時半から正午まで、ふれあいセンター向陽台（現在は新型コロナウイルス感染防止のため閉館中）にサークルのメンバーがいて、各種活動の体験やおしゃべりをすることができます。

○問い合わせ先：鈴木優子さん

Tel. 090-4752-9673

（夜8時まで）